

パネル展示報告

立教創立者の遺品

— 京都教区寄贈ウイリアムズ資料 —

大江 満

池袋キャンパス…二〇一三年一〇月一八日(金)～一〇月

二三日(水)

新座キャンパス…二〇一三年一〇月二五日(金)～一〇月

二九日(火)

企画・制作…立教学院史資料センター

写真…三浦健司

はじめに

立教創立者ウイリアムズの一九一〇(明治四三)年の他界後、一世紀以上日本聖公会京都教区(当時は京都地方部)資料室に保存されてきたウイリアムズ資料が、このたび二〇一三(平成二五)年五月、京都教区と立教学院の正式な合意にもとづき、立教学院史資料センターに移管された。

ウイリアムズが五〇歳になった直後の一八七九(明治一二)年七月三十一日に作成された彼の遺言書によると、

彼の蔵書類などは日本ミツシヨンの図書館に譲渡すると言及されている。今回の移管資料のなかの蔵書群がそれである。他方、この遺言書にはウイリアムズの書簡、説教、説教のメモはみな焼却すること、とも指示された。このため、彼の直筆ノート類などは、当時焼却処分を惜しんだ日本人関係者が彼に内密で残した一部のみが現存することとなった。蔵書群とともに今回移管されたこの直筆資料は、本学院開学者の貴重な史料というだけでなく、日本のキリスト教史や教育史にとっても第一級史料として位置づけられるものである。

ノート類のなかには、ウイリアムズ他界後、当時の外国人宣教師によって彼の蔵書を内容別に分類したものが含まれており、それにもとづいたタイプ打ちの蔵書リストが伝わっている。これによると、蔵書数は七〇〇冊以上におよぶ。ただ、そのなかには紛失しているものもいくつかある。直筆資料に関しては京都教区の依頼で同志社大学人文科学研究所(第一研究)が一九七三(昭和四八)年一〇月に「日本聖公会京都教区所蔵文書」として作成した目録がある。このリストは「ウイリアムズ主教文書」と「ウイリアムズ主教宛書簡」の二つに分けられており、前者が約二三〇点、後者が五〇〇点ほどある。このほか、今回の移管資料には、既存のリストに記載されていないものもある。

このたびの展示では、そのなかの貴重な資料の一部を紹介する。

今後、移管資料全体の目録化を進め、修復保全処理、デジタル撮影を経て、永久保存とする。

略歴

チャニング・ムーア・ウィリアムズ Channing Moore Williams (一八二九—一九一〇)

ウィリアムズは一八二九(文政一二)年七月一八日、アメリカ合衆国ヴァージニア州の州都リッチモンドで、弁護士之父ジョン・グリーン・ウィリアムズと母メアリー・アンの第五子として生まれた。一八五〇年の秋にヴァージニア州ウィリアムズバーグのウィリアム・アンド・メリー大学に入学、二年後の夏に文学修士の学位(当時の最優秀学位)を得て卒業した。一八五二年秋に米国聖公会のヴァージニア神学校に入学、一八五五年の卒業後、米国聖公会遣清宣教師として同年末ニューヨークを出港し、南大西洋からオーストラリア経由の航路で半年後の一八五六年六月二八日に上海租界に上陸した。一八五九(安政六)年に来日するまでの三年間をウィリアムズは中国で過ごす。上海到着一年後には中国語を習得し、同僚ジョン・リギンズとともに上海郊外へ往復半月を要する開拓伝道旅行を開始、一八五八年三月から

の一年あまりは江蘇省常熟で定住伝道を敢行した。

一八五九年二月一四日に遣日宣教師に任命されたウィリアムズは六月末に長崎に来航。同年五月二日に療養目的で渡日していたリギンズとともに、この二人は最初の来日プロテスタント宣教師となった。だが、リギンズは健康悪化で滞日一〇ヶ月足らずで帰米、一八六〇(万延一)年夏に宣教医として後続したH・E・シュミットも一年三ヶ月後の一八六一(文久一)年一月末に健康を害して離日、その後、幕末禁教令下の長崎でウィリアムズは独り日本ミッシオンを守った。一八六六(慶應二)年に一〇年ぶりに一時帰国するまで、この長崎在住時代の七年間にウィリアムズは日本の言語、宗教、文化、歴史、習俗、時事情報などの習得に努め、彼を訪問した長州藩士の高杉晋作には米国の国情を、のちに近代通信・運輸制度の創始者となる幕吏の前島密には郵便制度を教え、のちの総理大臣の大隈重信(早稲田大学創立者)も長崎でウィリアムズから教えを受けたことを述懐している。一八六六年に帰米したウィリアムズは同年米国聖公会第二代中国・日本伝道主教として按手された。滞米中に合衆国大統領と国務長官を訪問して日本の禁教令撤廃への外交圧力を要請し、禁教令の高札が撤去される一八七三(明治六)年まで精力的にこの撤廃運動を展開した。

一八六八(明治一)年に主教として東洋に帰任したウイリアムズは、中国の新伝道地開拓旅行を敢行して武昌を新伝道拠点とさだめる一方、在日宣教師不在となる日本ミッシヨンの生命線として自ら挺身するため、一八六九(明治二)年に大阪に移住、最初の大阪在住プロテスタント宣教師となった。一八七二(明治五)年には東京拠点の開設を本国から認可され、一八七四(明治七)年には日本専任主教に任命された。この年に東京開市場(築地外国人居留地と雑居地)内で立教学校を開設。一八八七(明治二〇)年の日本聖公会組織成立に尽力した二年後、日本伝道主教を辞任した。一八九五(明治二八)年以降は六〇歳代半ばにもかかわらず、一宣教師として布教未踏地の京都府北部などの開拓伝道に専心。一九〇八(明治四一)年老衰のため帰郷し、二年後の一九一〇(明治四三)年二月二日に故郷リッチモンドで永眠した。享年八一。

日本聖公会有志者によって故郷のハリウッド墓地と京都市の若王子墓地に建立されたウイリアムズの追慕碑には、彼を評して「道を伝えて己を伝えず」と刻まれている。

年表

一八二九(文政一二)年 七月一日、チャニング・ムー

ア・ウイリアムズ、合衆国ヴァージニア州リッチモンドに生まれる。

一八五九(安政六)年 六月末、ウイリアムズ、米国聖公会遣日宣教師として長崎に来日(三〇歳)。

一八六六(慶應二)年 一〇月三日、ウイリアムズ、米国聖公会第二代中国・日本伝道主教に接手される。

一八七二(明治五年) 二月二日、ウイリアムズ、大阪の川口居留地の与力町(雑居地)に男子校を開設(のちの大阪の英和学舎)。

一八七四(明治七年) 二月三日、ウイリアムズ、東京開市場(築地居留地と雑居地)内に私塾を開設(のちの「立教学校」)。おそくとも一二月には私塾を立教学校と称し、雑居地の入船町五丁目一番地に移転。

ウイリアムズ、この年に初代日本伝道専任主教に任命される(四五歳)。

一八七六(明治九年) 一月二九日、東京市の大火により校舎を含む入船町の東京ミッシヨン拠点が全焼。立教学校はこの二年間休眠状態となる。

一八七八(明治一二年) 一月一日、大阪から転任したJ・H・クインビーが男子塾を再開。

一八七九(明治一二)年 京橋区築地二丁目二三番に塾を移転し、貫元助名義で六月二七日付「立教学

校」私学開業願を提出。

七月三十一日、ウイリアムズ、遺言書を作成（五〇歳）。

一八八〇（明治一三年） ウイリアムズ、第五回築地外国人居留地の区画競貸（せりがし）で私財を投じ、三七番区画を購入（のちの「立教大大学校」敷地）。

一八八三（明治一六年） 一月二三日付「立教大大学校」閉業届を提出。前年末、築地居留地三七番に完成したJ・M・ガーディナー校長設計のゴシック風三階建の新築煉瓦校舎を「立教大大学校」と称し、一月から授業開始。

一八八七（明治二〇）年 大阪の英和学舎閉校、生徒一四人が立教大大学校に転入。

この年、ウイリアムズの尽力により日本聖公会組織成立。

一八八九（明治二二年） ウイリアムズ、日本伝道主教辞任（六〇歳）。

一八九〇（明治二三）年 反動的な時代風潮もあり、立教大大学校は生徒数半減。校内にも日本化の機運が高まる。立教大大学校は左乙女豊秋ほか日本人教師を多数採用し、校名を「立教大大学校」に戻す。

一八九三（明治二六年） ジョン・マキム、ウイリアムズの後任として、米国聖公会第二代日本伝道主教

に着任。この年、ウイリアムズは一八六六年以來、二七年ぶりに帰米。翌年日本に戻り、宣教師として京都府開拓伝道に従事。

一九〇三（明治三六年）年 ウイリアムズ、一〇年ぶりに帰郷（七四歳）。翌年日本に帰任し、伝道再開。

一九〇八（明治四一年）年 四月二十九日、ウイリアムズ最後の離日。五月二十五日、郷里ヴァージニアに到着。

一九一〇（明治四三年） 一月二日、故郷リッチモンドで永眠（八一歳）。

※ 挿絵（エッチング）

J・M・ガーディナー「築地外国人居留地」鳥瞰図
（『スピリット・オブ・ミッションズ』一八九四年三月号）。

展示パネル一覧

一 日本語学習帳

漢字切り貼り帳全二四冊。

左から、漢字楷書・フリガナ、漢字・ふりがな、用法・例文・語義の順で貼り付けられている。

来日した幕末一八五九（安政六年）年から一八六六（慶應二年）までの長崎在住時代のおそらく初期に作成。

二

和英辞典草稿帳

[1861:1919 長崎 日本] (題字)二冊。

左から、カタカナ、ローマ字、英文意味の順で手書きされている。

文久元年(長崎在住時代)の作成。

三

洗礼・堅信礼名簿

日本人受洗者・堅信者名簿、中国人堅信者名簿(一八六八年〜中国語名併記)、米国聖公会来日宣教師名簿(ウイリアムズが一八五九年六月に来日したこと)などが記されている。

立教創立年一八七四(明治七)年の六月二八日の受洗者欄には、立教最初の受洗者である和田秀豊の名がみえる。翌一八七五(明治八)年六月二七日には樺山久宣、岩下清周、野尻克己の三人が受洗している。

一八七四年九月一四日の堅信者欄に和田秀豊の名が記されている。堅信礼の場所は「No.2の反対側の教室内」とある。

樺山、岩下、野尻の堅信礼は一八七五年九月二六日、場所は「入船町チャペル」と記されている。

四

雑記ノート

グリフィス著『ミカドの帝国』の抜粋、タウンゼント・ハリスの日誌の抜粋、日本伝道関係年表などが記されているノート。

ウイリアムズの長崎来日(一八五九年六月末)直前の上海出港日が、一八五九年六月二三日であることが、このノートの年表で初めて判明した。

五

雑記ノート

聖句、幕末・長崎時代の日記(一八六一年三月一日〜一月二日)、「須弥山(しゅみせん)」毛筆図、仏教研究、本居宣長(神道研究)、修験道史、松平春嶽の見解などが記された日本研究ノート。

毛筆で書かれた日本語聖句は、新約聖書「マタイによる福音書」七章一二節の部分。

左から、訓点聖句(漢文)、そのカタカナ文、ふりがな付き漢文、漢字・ひらがな混成の日本文を併記している。

古代インド・仏教の宇宙観である「須弥山」の毛筆図。

別角度からの「須弥山」毛筆図。

六

日本語学習ノート

「勉強家の友」Benkyo ka no tomo」というテキストによる日本語学習帳。手書きの英文、ローマ字つづり。

一八八五(明治一八)年のウィリアムズの聖書の授業出席簿。

七

雑記ノート

ヘブル語による詩篇勉強ノート。ウィリアムズは明治期・超教派事業である旧約聖書翻訳の「詩篇」後半部分(七八篇～一二〇篇)の訳出を担当した。このノートは彼がヘブル語原文から研究した形跡をしめしている。このほかにもヘブル語と英文が記された多くの紙片やノートの一部が残されている。

一〇 会計簿

一八七三～一八八五年の江戸ステーションの会計簿。

立教創立年月(一八七四年二月)の家賃が記されている。二月三日に発足させた私塾の家賃は、二月一〇日付の欄に八・二五円(八・〇九ドル)とあるが、一八七四年三月～二月までは一ヶ月五〇ドルと記されている。

一一 遺言書

八

「主禱文問答」

表紙にウィリアムズによるSt. Paul's Schoolの自筆サイン(ペン書き)がある。題字と内容は和紙に毛筆で記されている。

九

立教大学校時代の出席簿

立教大学校時代のウィリアムズの聖書と英会話の出席簿(一八八四～一八八七年)。
St. Paul's Schoolの手書き題字。

ウィリアムズが五〇歳になった直後の一八七九(明治一二年七月三一日)に作成された遺言書。封筒と一枚目。ウィリアムズの在米資産は、独身で早逝した次兄ジョン・グリーン以外のウィリアムズの四兄弟姉(長兄ウィリアム、弟ロバート、次姉アリス、長姉メアリー)のこともたちの間で四等分するものと記されている。

二枚目。ウィリアムズの在日不動産と全資金は、教会、男子校(立教)、神学校の建築、伝道

師や神学生の教育のために日本ミッシヨンが使用する条件で、米国聖公会内外伝道協会に譲与すること、彼の蔵書群は日本ミッシヨンの図書館に与えることなどが指示されている。

三枚目。ウィリアムズの伝記は書かず、書簡、説教、メモ類は全て焼却すること、葬式は講話なしで非常に簡潔なものとすることを望んでいる。遺言書作成の証人はSPG宣教師W・B・ライトと米国聖公会宣教師J・H・クインビーの二人。遺言執行人は弟ロバート・F・ウィリアムズ、米国聖公会宣教師A・R・モリス、クインビーの三人。その後一八八四(明治一七)年一〇月一三日に遺言追加条項を設け、一八八二(明治一五)年に逝去したクインビーに替えてJ・タムソン・コールを執行人にしている。

二 立教学院諸聖徒礼拝堂(メイザー図書館旧館二階の仮チャペル)と蔵書

聖書註解書一一冊。

John Peter Lange, *A Commentary on the Holy Scriptures: Critical, Doctorinal and Homiletical*, Charles Scribner & Co., New York, vol. I - XI, 1867-1876.

一三 仮チャペルと蔵書

日本語訳聖書・訓点聖書五冊(左から)。
『新約全書』全三巻、翻訳委員社中、日本横浜上梓、一八七七年。

『旧約全書』後編、米国聖書会社、日本横浜上梓、一八八八年。

『訓点旧約全書』下篇、米国聖書会社、日本横浜印行、一八八三年。

一四 仮チャペルと蔵書

ギリシャ語聖書(アルフォード版)全四巻。

Henry Alford, *GREEK TESTAMENT*, vol. I - VI, London, 1863-1866.

第二巻と第四巻にウィリアムズの自筆サインがある。

ギリシャ語聖書(アルフォード版)第一巻。

第一巻には、幕末に長崎在留英国人のチャプレンとして奉仕した米国人宣教師ウィリアムズ(一八六〇〜六六年)への彼らからの献辞(金文字)が記されている。

一五 仮チャペルと蔵書

聖書註解書一〇冊。

The Holy Bible with an Explanatory and Critical Commentary, by Bishops and other clergy of the Anglican Church, vol. I-X. Charles Scribner & Co. New York, 1872-1881.

一六 仮チャペルと蔵書

中国語訳旧約聖書(北京語 S・I・J・シエレシエフスキー訳)

『旧約全書』京都美華書院、一八七四年。

ウィリアムズの自筆サインがある。シエレシエフスキーはウィリアムズが中国・日本伝道主教時代の北京在住宣教師。のちにウィリアムズの後任主教となる(米国聖公会第三代中国伝道主教)。言語学者として活躍。中国の聖約翰大学(St. John's University, Shanghai)の設立者。

一七 仮チャペルと蔵書

日本語訳・ギリシア語訳聖書など一〇冊。

背景は旧図書館一階と二階の踊り場背面にあるメイザー・タブレット。

『志無也久世無志与』ネーザー・ブラウン訳、横浜、一八八二年(第三版)。

Vetus Testamentum Grace, 七十人訳ギリシヤ

語旧約聖書、一八五五年。

『我主イエズス・キリストの新約聖書』ラゲ訳、公会、一九一〇年。

『旧約聖書 詩篇 全』北英国聖書会社、一八八七年。

Book of Psalms, 日英対訳、ヘボン訳、横浜、一八八八年。

『新約全書 四福音書 前編』翻訳委員社中、日本横浜印行、一八七八年など。

一八 中国語訳旧新約聖書

『新約全書』上海墨海書館印、一八五五年。

旧約聖書は表紙なし。新約聖書は黄色の表紙ではじまっている。

ウィリアムズは一八五六年六月の上海到着後、来日するまでの三年間、中国(清国)の江蘇省に伝道した。上海租界郊外への開拓訪問・定住伝道で、彼は中国語で説教しているが、この聖書も往時に使用されたものの一つと思われる。

一九 日本語訳旧約聖書『詩篇 全』北英国聖書会社、

一八八七年

超教派翻訳事業の旧約聖書『詩篇』後半部分

は、ウィリアムズが邦訳した。ウィリアムズの自筆サインがあるこの書籍には、北英国聖書会社からの以下の手書きの献辞が記されている。

Rt. Rev. Bishop Williams
With Compliment of the Agent
National Bible Society of Scotland.

二〇 ナップ著『キリスト教神学講義』全二巻 第二版、フィラデルフィア、一八四五年

George Christian Knapp, *Lectures on Christian Theology*, 2nd American edition, Philadelphia, 1845.

ヴァージニア神学校時代(一八五二—一八五五)の教科書。ウィリアムズの押印と書き込みがある。同じ全三巻本(第二版、ニューヨーク、一八五〇年)にも自筆サインと書き込みが多数ある。書籍のなかに書き込み用の白紙ノートが綴じられており、そこにぎっしりと彼自身による書き込みがされている。

二二 モースハイム著『教会史』全四巻(第四巻欠) ニューヨーク、一八五二年

John Lawrence von Mosheim, *Institutes of Ecclesiastical History, Ancient and Modern*, vol. I-IV, New York, 1852.

ヴァージニア神学校時代の教科書。ウィリアムズの自筆サインと書き込みがある。

第一巻、第三巻にウィリアムズの自筆サイン。第三巻に書き込み。

二二 メドハースト編著『華英辞典』全三巻 バタヴィア、一八四二、四三年

Walter Henry Medhurst, *Chinese and English Dictionary*, vol. I, II, Batavia, 1842, 1843.

W・H・メドハーストはロンドン伝道協会遣清宣教師。中国の開国前からマラッカ(一八一七)、ペナン島(一八一九)、オランダ植民地ジャヴァ島北西岸の湾岸都市バタヴィア(一八二二)現ジャカルタなどに居住し伝道、中国語を習得して辞典を編纂した(日本語も学習し一八三〇年『英和・和英字彙』を作成している)。バタヴィアでは米国聖公会最初の中国派遣宣教師ヘンリー・ロックウッド、フランシス・ハンソン(一八三五年)と、その二年後にウィリアム・ジョーンズ・ブーン(のちの米国

聖公会初代海外伝道主教Ⅱ初代中国伝道主教)らを迎え、彼らと交友した。

書誌情報によると、この『華英辞典』全二巻(バタヴィア、一八四二、四三年)は日本では他所蔵例が見られない。

見開き、インデックス拡大。

二三 メドハースト編著『英華辞典』全二巻 上海、一八四七、四八年

Walter Henry Medhurst, *English and Chinese Dictionary*, vol. I, II, Shanghai, 1847, 1848.

第一巻の扉と第二巻の見開き。

二四 S・W・ウイリアムズ編著『英華辞典』(広東語)

広東、一八五六年

Samuel Wells Williams, *TONIC DICTIONARY of the Chinese Language in the Canton Dialect*, Canton, 1856.

衛三畏廉士甫編訳『美華分韻撮要』羊城中和行

梓行

広東語題字と英語題字。

S・W・ウイリアムズは、アメリカカン・ボード遣清宣教師。一八三三年広東に入るが、

一八三五年にマカオに移住。同派のE・C・ブリッジマンとともに月刊定期情報誌『チャイニーズ・リポジトリ』などを編集刊行。一八五七年にはミッションを離れて駐清米国公使館書記官となる。中国語とともに日本語も習得し、ペリー艦隊の通訳官として一八五八年(最初の来日プロテスタント宣教師来航の前年)には四度目の来日をした。

この広東語・英語の辞典には、C・M・ウイリアムズの書き込みが多数ある。

二五 フランス語『日本史』全四巻(第三巻欠)パリ、一七五四年

Histoire du Japon, Paris, 1754

イエズス会の日本情報にもとづく日本史。第一・第二・第四の各巻にウイリアムズの自筆サインがある。

二六 S・W・ウイリアムズ著『中華帝国』全二巻 第三版、ニューヨーク、一八五一年

Samuel Wells Williams, *Middle Kingdom*, 3rd edition, vol. I-II, New York, 1851.

中国全般に関するS・W・ウイリアムズの代表

作、第一版は一八四八年。

C・M・ウイリアムズの自筆サインがある。
ペリー来日前の日本を含む詳細で正確な世界地図が折込まれている。C・M・ウイリアムズも東洋渡航前にこれに目を通したと思われる。

二七 ロングフェロー著『詩集』全二巻 ポストン、

1838年

Henry Wadsworth Longfellow, *Poems*, vol. I, II, Boston, 1838.

友人からの手書き献辞(一八五九年)が記されている。

この詩人で哲学者のH・W・ロングフェローの子息チャールズ・アップルトン・ロングフェロー(Charles Appleton Longfellow)が、一八七四(明治七)年当時、東京開市場(外国人居留地と雑居地)内で住んでいた家を、ウイリアムズが借りて、同年二月三日に立教学校の前身となる私塾を開設した。

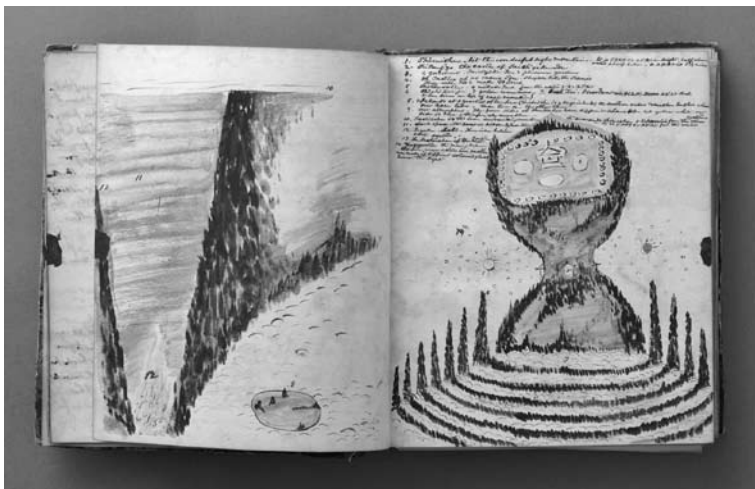
二八 ウイリアムズ移管資料室(仮)

仮保管室。資料整理・目録作成などの作業現場。
入口左から正面奥を撮影。



1. 日本語学習帳(展示パネル一覽 一)

漢字切り貼り帳全14冊。左から、漢字楷書・フリガナ、漢字・ふりがな、用法・例文・語義の順で貼り付けられている。来日した幕末1859(安政6)年から1866(慶應2)年までの長崎在住時代のおそらく初期に作成。



2. 雑記ノート(展示パネル一覧 五)

聖句、幕末・長崎時代の日記(1861.3.15～11.2)、「須弥山(しゅみせん)」毛筆図、仏教研究、本居宣長(神道研究)、修驗道史、松平春嶽の見解などが記された日本研究ノート。
この写真は古代インド・仏教の宇宙観である「須弥山」の毛筆図。



3. 日本語学習ノート(展示パネル一覧 六)

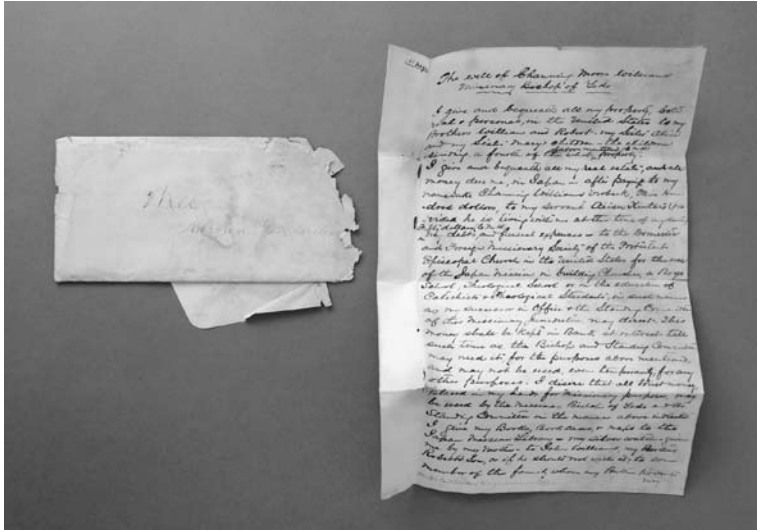
「勉強家の友」(“Benkyo ka no tomo”)というテキストによる日本語学習帳。手書きの英文、ローマ字つづり。

4. 立教大学校時代の出席簿(展示パネル一覧 九)

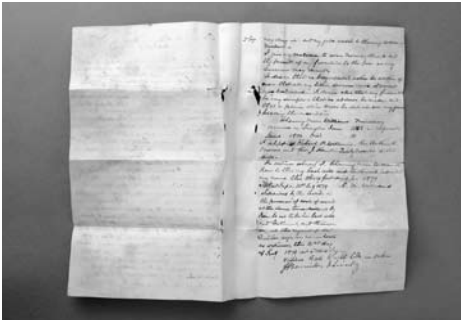
立教大学校時代のウィリアムズの聖書と英会話の出席簿(1884～1887年)。
この写真は1885(明治18)年のウィリアムズの聖書の授業出席簿。

5. 会計簿(展示パネル一覧 一〇)

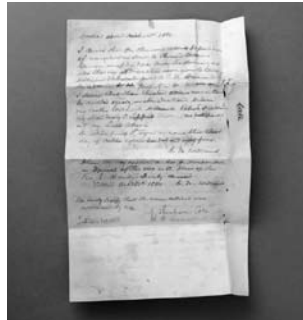
1873～1885年の江戸ステーションの会計簿。
立教創立年月(1874年2月)の家賃が記されている。2月3日に発定させた私塾の家賃は、2月10日付の欄に8.25円(8.09ドル)とあるが、1874年3月～12月までは1ヶ月50ドルと記されている。



(1)



(2)



(3)

6. 遺言書(展示パネル一覧 一)

ウィリアムズが60歳になった直後の1879(明治12)年7月31日に作成された遺言書。

(1)封筒と1枚目。ウィリアムズの在米資産は、独身で早逝した次兄ジョン・グリーン以外のウィリアムズの四兄弟姉(長兄ウィリアム、弟ロバート、次姉アリス、長姉メアリー)のこどもたちの間で四等分するものと記されている。

(2)2枚目。ウィリアムズの在日不動産と全資金は、教会、男子校(立教)、神学校の建築、伝道師や神学生の教育のために日本ミッションが使用する条件で、米国聖公会内外伝道協会に譲与すること、彼の蔵書群は日本ミッションの図書館に与えることなどが指示されている。

(3)3枚目。ウィリアムズの伝記は書かず、書簡、説教、メモ類は全て焼却すること、葬式は講話なしで非常に簡潔なものとするのを望んでいる。遺言書作成の証人はSPG宣教師W・B・ライトと米国聖公会宣教師J・H・クインビーの2人。遺言執行人は弟ロバート・F・ウィリアムズ、米国聖公会宣教師A・R・モリス、クインビーの3人。その後1884(明治17)年10月13日に遺言追加条項を設け、1882(明治15)年に逝去したクインビーに替えてJ・タムソン・コールを執行人にしている。

